

今月の特集②

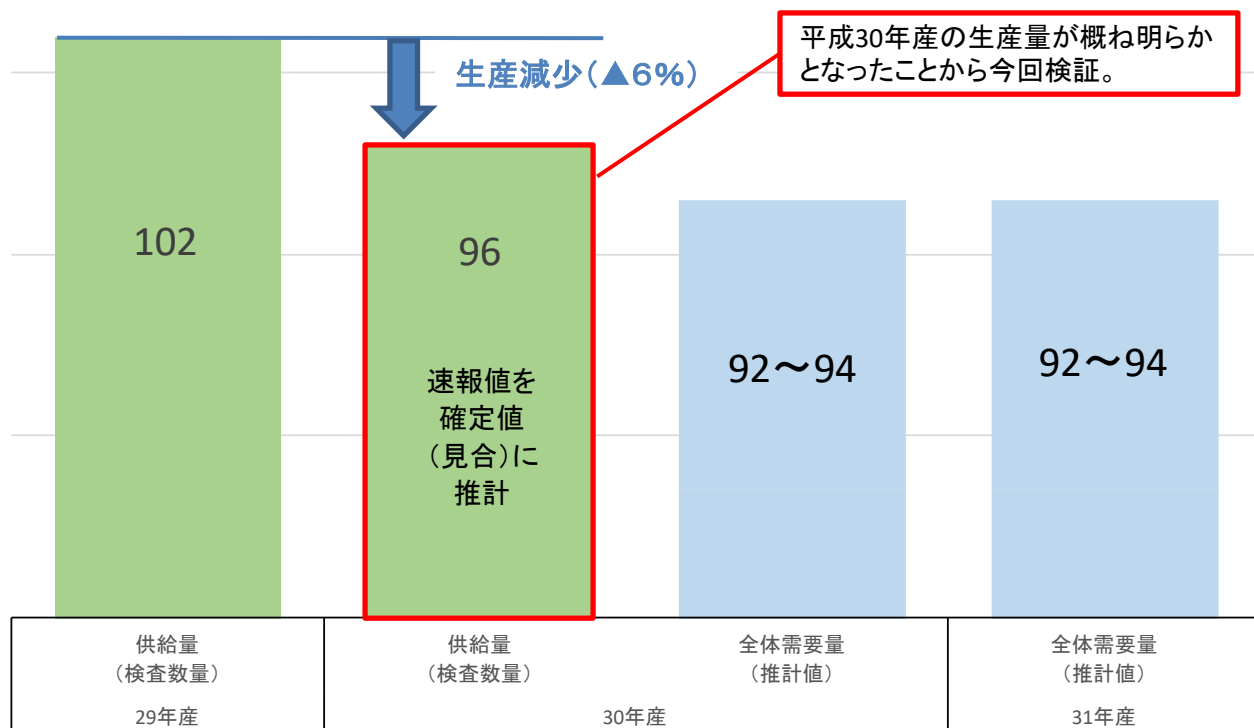
【平成30年産酒造好適米の生産状況】 (農産物検査結果に基づく推計)

【平成30年産酒造好適米の生産状況】

- 平成30年産酒造好適米の生産量については、平成30年産の需要量が92～94千トンと推計されるため、平成29年産の生産量（102千トン）と比べて▲8%程度であれば、全体量としての需給は均衡すると見込んでいたところ。
- 今般、平成30年産酒造好適米の農産物検査数量（12月31日現在）がとりまとめられ、生産概況が明らかとなったが、生産量は平成29年産から▲6%程度（▲6千トン程度）の96千トン程度と見込まれる。
- この結果、平成30年産酒造好適米の需給は、生産量が需要量を若干上回る状況と見込まれる。
- 平成31年産の作付けに当たっては、引き続き需要量調査結果や生産量等のデータを参考にしつつ、自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要。

酒造好適米の全体需給状況見通し(推計)

(単位:千トン)



注1： 供給量は、農産物検査数量(醸造用玄米)の値。ただし、平成30年産は、平成30年12月31日現在の速報値を直近3力年の12月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定段階ベースに推計。

注2： 平成30年産及び平成31年産の需要量は、平成30年7月に実施した需要量調査結果から推計したものであり、それ以降の酒造メーカーにおける需給状況により変動する場合があることに留意する必要がある。

平成30年産酒造好適米の銘柄別生産状況

- 平成30年産酒造好適米の生産量は、直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率から96千トンと推計。平成29年産に比べて▲6%程度となる見込み。
- 主要な品種では、昨年不作により生産量が大きく減少していた五百万石は増加する一方、山田錦及び美山錦は減少する見込み。

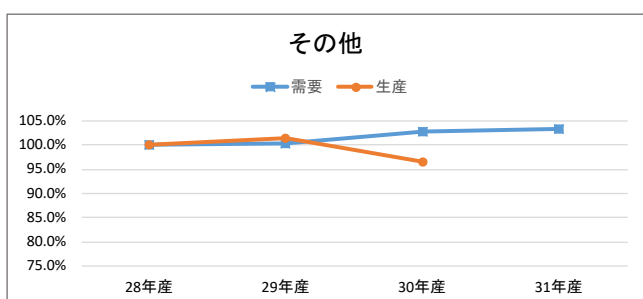
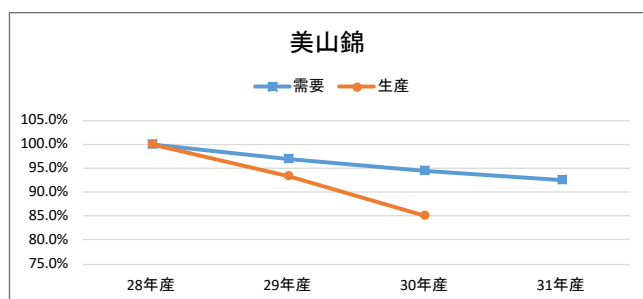
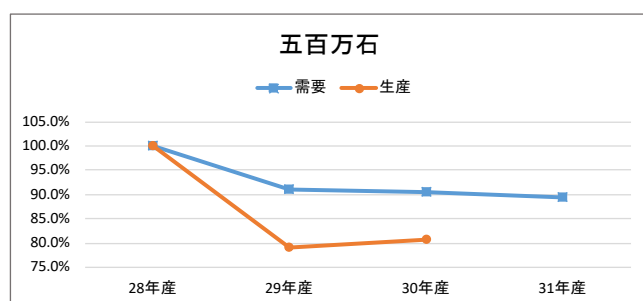
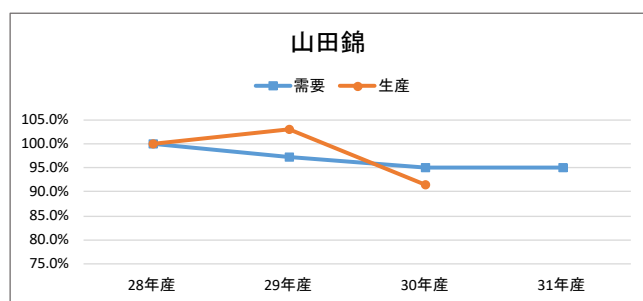
農産物検査結果及び30年産生産量の推計

(単位:トン、%)

品種	27年産		28年産			29年産			30年産		
	12月31日現在	確定値	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	推計値	対前年比
山田錦	37,697	39,549	36,563	37,257	94.2%	37,558	38,431	103.2%	33,071	34,059	88.6%
五百万石	24,497	27,078	22,644	26,030	96.1%	19,017	20,564	79.0%	18,935	21,039	102.3%
美山錦	7,565	7,838	7,272	7,513	95.9%	6,977	7,018	93.4%	6,239	6,392	91.1%
その他	32,750	34,332	33,165	35,817	104.3%	33,490	36,388	101.6%	32,153	34,576	95.0%
総検査数量	102,509	108,797	99,644	106,618	98.0%	97,042	102,400	96.0%	90,398	96,066	93.8%

生産量と需要量の増減率の比較（平成28年産基準）

- 平成28年産を基準として酒造好適米の生産量（農産物検査数量）と需要量（需要量調査報告数量）の増減率を比較すると下表のとおりであり、全体的にはほぼ需要の増減の動きに応じた生産動向となっていることがうかがえる。
- 下表は需要動向に応じた生産動向となっているかを増減の動きで検証したものであり、定量的、地域的な需要の過不足を表しているものではないことに留意。したがって平成28年産において需要が均衡していたとするものではない（平成28年産は酒造好適米全体で生産量が需要量を10%程度上回る状況）。
- 平成31年産に向けて、各産地においては、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率や作況等のデータを参考にしつつ、これまでの自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、引き続き、需要に応じた生産に取り組むことが重要。



以上のほか、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率等の詳細な情報は、以下のURLを参照ください。

URL : http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html